令和6年度 第2回千葉市文化財保護審議会議事録

- 1 日 時 令和7年3月3日（月）15時～17時
- 2 場 所 千葉市役所本庁舎 L302会議室
- 3 出席者 （委員）
小関悠一郎会長、菅根幸裕副会長、井口雅代委員
山田俊輔委員、藤木竜也委員、神谷睦代委員
（事務局）
齋木生涯学習部長、君塚文化財課長、蚊谷新博物館整備
室長、森本文化財課長補佐、その他事務局職員
- 4 議 題
- （1）金光院の板碑の指定について（諮問）
 - （2）市指定文化財の指定候補「加曾利貝塚出土品」について（報告）
 - （3）市指定史跡「千葉山」の確認調査について（報告）
 - （4）市地域文化財「千葉市ゆかりの家・いなげ（旧武見家住宅）」の確認調査について（報告）

会議経過

[議題（1）金光院の板碑の指定について（諮問）]

事務局より諮問に至る経緯について説明を行い、諮問書を小関会長に手渡した。これを受けて、委員より以下の意見が出された。

（神谷委員）彫刻として見ても造形的、技術的にも優れたもので、当時の技術を伝える貴重な現存物といえる。

（小関会長）今回指定候補とするに至った契機はどのようなものか。

（事務局）この板碑が金光院から郷土博物館に寄託される際、資料の調査を行った。刻まれた年号から市内最古の板碑であることが確認され、県内でもこの時代の板碑は類例が少ないため、その貴重さから今回指定の候補とした。

意見が出された後、「金光院の板碑」の指定について適当と認めるとの答申が示された。

[議題(2) 市指定文化財の指定候補「加曾利貝塚出土品」について]

事務局より指定候補について説明を行い、これを受けて、委員より以下の意見が出された。

(菅根委員) 発掘から50年ほど経過しているが、その間候補になったことはあるのか。

(事務局) 候補になったことはない。

(菅根委員) 何か理由はあるのか。

(事務局) 指定文化財は取り扱いに制限をかけるものであるが、加曾利貝塚は現在も発掘調査が継続しており、新たな出土物と比較研究を行いやすい状態を保ちたいという市職員の意向があったため、先送りにしてきた。

しかし、加曾利貝塚博物館の移設、建て替えが視野に入り、新博物館の開館を令和12年度に予定するなかで、出土遺物の中でも貴重なもの、優れたものを展示の目玉とできるよう価値を明確にするため、今回指定候補とした。

(山田委員) 加曾利貝塚出土品については、国指定特別史跡から出土した遺物であり、出土品全体が国指定重要文化財の対象となる程度のものである。

加曾利貝塚の遺物は縄文時代中期のものがメインではあるが、今回は後期の一部を先行して指定するということで、今後調査研究が進み、評価が確定してくれば、他時期の遺物についても追加指定を行うことができる。そのためにも、出土資料の基礎研究を進めていただき、今回の報告にある資料のような、価値を固めた色々なパーツをくみ上げていくことで、総括として加曾利貝塚を表す文化財として指定できるよう進めていただきたい。

(神谷委員) 図版1、2にある異形台付土器について、縄文がシンメトリーになっている等の意匠が施されていることは、当時の人々の造形物に対する現実的、美術的な視点を伝えるものとしても価値があるものである。

[議題(3) 市指定史跡「千葉山」の確認調査について]

事務局より確認調査について説明を行い、これを受けて、委員より以下の意見が出された。

(菅根委員) すでに消滅したものにトレンチを入れて調査し、現存する部分には調査は行わないということによいのか。また、その理由はあるのか。

(事務局) 今回の調査の目的は、この塚がいつの時代のもので、どのような性格のものか確認することにある。考えられる可能性としては、古墳や口伝のとおり千葉氏に関連する墓、近世に見られる十三塚などが考えられるため、最低限の調査でそのどれか判別できるよう、現存する塚には調査を行わない予定である。また、トレンチの向きについては、現地にある樹木等の存在から方向を決定した。

(菅根委員) 貴重な機会であり、継続的な調査ではないため、多くのことが分かるよう現存する塚の調査を行う必要もあると考えたが、調査目的と状況について承知した。

(藤木委員) 13個のものが一連のものであることは明確なのか。偶然並んでいるものであれば、断片的な調査で全体の把握はできるのか。

(事務局) 直線に並んでいることから、一連のものであると考えている。塚の性格の判断だけであれば道路の北側の調査で足りるという推定で調査を計画した。ご意見のあった通り、南側の調査については現地の状況も踏まえて検討したい。

(小関会長) 資料に寛文10年に五輪塔がこの地から大日寺に移されたと記載があるが、明確な数字が挙げられる根拠にはどんなものがあるのか。

(事務局) 地元の口伝のみである。

[議題(4)市地域文化財「千葉市ゆかりの家・いなげ(旧武見家住宅)」
の修繕について]

事務局より修理について説明を行い、これを受けて、委員より以下の意見が出された。

(小関会長) 直せるものについては修理を行うという説明があったが、直せないものについては、どのような対応を行うのか。

(事務局) 腐食等で完全に失われている個所については、外見を損なわないよう配慮した上で、新しいものに更新を行う。

(藤木委員) 水が入ると建築物は途端に痛むため、限られた予算の中で緊急的に雨漏りを防ぐためには必要十分な処置と考えられる。

問い合わせ先 千葉市教育委員会生涯学習部文化財課

T E L 0 4 3 - 2 4 5 - 5 9 6 2

F A X 0 4 3 - 2 4 5 - 5 9 9 2